新着図書のご案内

図書館では、市民皆様方の知識の泉となるように心がけております。受け付けのカウンターを広げ、読書・調査研究のお手伝いもしております。お気軽に声をかけてください。ご来館をお待ちしております。

◇一般図書◇

久米宏の金曜チェック　テレビ朝日
兎をめぐる十二の物語　唐　十郎
全国北から南から寺社巡り　日之出出版
ライン紀行一三〇〇キロ　新潮社
ゴルバチョフ　朝日新聞社
ビジネスマンの父より息子への30通の手紙　K・ウォード
雀はなぜ舌を切られたか　海野　弘
新人類読本　日本能率協会
俳句の中の気象学　安井春雄
女の快適更気学　Dr.・チエコ
観たり撮ったり映したり　手塚治虫
明治のことば辞典　惣郷正明
女学生　赤川次郎
冬眠の森　倉本　聡
グルメを料理する十の方法　栗本　薫
跳べ！妻恋警視　胡桃沢耕史
ジェイムス・ジョイスを読んだ猫　高橋源一郎
花衣をめぐやまつわる　田辺聖子
相思青花　上・下　陳　舜臣
古代出雲・荒神谷の謎に挑む　松本清張
ハーレム・ワールド　山田詠美
ザ・水滸伝　第三書館
一五八ポンドの結婚　ジョン・アーヴィング
第五の日に帰って行った男　B・フリーマントル
ほか　二一一冊

◇児童図書◇

電話なんでも相談
なぞなぞゲームブック
春にあそぶ
たのしいあやとり
たのしいおりがみ
学校ウサギをつかまえろ
日曜日は魔女びより
消えた一日
800番への旅
いたずらララちゃん
おててがつめたくなりますよ
ひとりぼっちのおとこのこ
こいぬのチップはおるすばん
ほか　七六冊
―計―
一般図書　二三七冊
児童図書　八九冊

家庭教育（四）
自信をもたせる

家庭教育を行うに当たって大切なことは、子どもが自分を信じることができるようにすることです。

ぼくは何をしてもだめだ、わたしはみんなに嫌われている、というように自分を見ることを「自己否定視」といいます。

自分を信じることができることを「自己肯定視」といいます。ぼくは「コノコト」ができる、わたしは友達に好かれていると自覚していることは良いことです。それは勉強のこともありますが、スポーツでも、遊びでも、仕事でもよいのです。自分なりに自信をもって自分がみられることは子どもを成長させます。

わたしは小学校へ入ってから「この事」ができるようになった。二年生の時より三年生になって「こうなった」というように、一つ一つの事を「できる」と自覚させてほめてやることです。これを「成長の促進」といいます。

親の子に対する働きかけは、成長を促進させる事と、保護する事です。子どもは未熟ですから保護してやらなくてはなりません。たとえば幼児が急に道路に走りださないようにするのも、小学生に交通のルールを教えるのも、高校生に小遣銭を適当に与えるのも保護する働きです。

幼児が大人の手を借りないで歩くようになる、またことばを一つ一つ覚える。小学生が自転車に乗れるようになったり、泳げるようになる。また一人で料理・洗濯ができるようになる。中学生になると控えめな子がある日急に活発に発言したりするようになります。この機会に親が子をほめてやりますと「ぼくはこれができる。」と自信を強くし成長を促進することができます。

それは難しくいえば達成感とか成就感ということで、今の子ども流に言えば「やった！」ということです。このことをしてやったという喜びがこの言葉の中に込められています。

「保護」と「成長の促進」はバランスをとらなくてはなりません。保護が多いと過保護になり、成長の促進が子どもの発達に見合っていないと「高のぞみ」になります。

（以下次回）

◎子どものことで困ったら教育相談室へ電話を下さい。

☎(43)1111内線216